

コロナに負けるな！ 進化する米自慢大会

——岐阜県稲作経営者会議青年部のチャレンジ——

主任研究員 小針美和

1 「目指される経営者」への挑戦

「岐阜県稲作経営者会議青年部(以下「いなけい青年部」)」は、岐阜県の若手(45歳以下)大規模稲作農業者による任意組織である(事務局は岐阜県農業会議)。会員数は27名で、その耕作面積は合計すると1,500haに及ぶ。「仕事も遊びも一生懸命」をモットーに、一人ひとりが「目指される経営者」となるべく、仲間とともに活動している。

その特徴は、県内の若手稲作経営者が地域の枠を越えて集まり、会員自らの問題意識や発案にもとづいて経営力の向上を目指した活動を行い、相互研鑽を図っていることにある。経営計画策定の勉強会や新技術の導入に向けた現地検討会等の研修のほか、岐阜県で開発中の新品種(岐系207号)の栽培体系確立に向けては、青年部会員の多くが実証栽培に参加し関係機関に情報提供するなど、岐阜県産米の振興にも積極的に協力している。

また、日常的な情報共有には、サポーター会員も参加するLINEグループ「いなけい青年部」を活用し、話題の新聞記事やネット情報を随時共有して意見交換している。わからないこと、機械の故障、資材の不足などの困りごと、グループLINEで呼びかければ気づいた会員からのアドバイスがあり、解決につながることも多い。

いなけい青年部活動の目玉のひとつが「米自慢大会」である。いなけい青年部には自ら精米販売している会員も多い。今後の販売強化に向けて食味の勉強をしたい、ほかの人の米とも食べ比べてみたいという声をきっかけに、第1回の2017年産では、調理施設のある会場を借りて会員同士で米の食べ比べを行い、順位を競った。第2回(18年産)と第3回(19年産)では、食べ比べとともに、(株)サタ

ケの協力のもと、機器分析による食味評価を並用し官能評価との違いをみるなど、考察の幅を広げた。

しかし、新型コロナウイルスの感染拡大により、さまざまな集合研修の開催は難しくなった。特に、20年産の米自慢大会は飲食を伴うということもあって、やむなく中止した。

2 消費者参加型に進化した第4回米自慢大会

その後も集合研修を再開できない状況のなかで、会員の「このままコロナで何もできないのは悔しい、米自慢大会をやりたい」という思いは強く、工夫して実施できないかと話し合った。そのなかで、「コロナ禍でお米もネット購入して宅配で受け取る人が増えている。集まらないなら、お米を届けて食べてもらうのはどうか」「消費者にお米の評価を聞くのはどうか」といったアイディアが出された。

しかし、多数の消費者に参加してもらうには費用がかさむ。また、同じ条件で精米・パッキングされた米を1セットにして消費者に届けなければならないなど、いなけい青年部のみで

岐阜県のお米10点
食べ比べていただける一般消費者を募集します

食べ比べの内容

- ① 岐阜県稲作経営者会議・同青年部に所属する農業者が、令和3年に生産・収穫したお米3合・10点セット(農業者名・品種名非表示)を応募いただいた住所に送付します(2月15日頃)
- ② 届いたお米をお好きな順番でご家庭で炊飯し、食べ比べて審査をお願いします
- ③ 食べ比べの結果を、同封する審査シート(見た目、香り、味、食感)に、ご自身の主観により採点・記入し、返信用封筒で3月10日(木)までに返送下さい

※審査結果は、農業者の岐阜県産米の食味向上に役立てます

●募集期間 令和4年2月8日(火)まで

●応募資格 国内にお住まいで、送付するお米3合・10点を炊飯し食べ比べ、令和4年3月10日までに審査シートを返送いただける方(先着50名)

●応募費用 無料

●応募方法 応募フォームから氏名・住所・電話番号を入力し応募いただくか、裏面申込書を記入の上、FAXまたはメールで送信下さい

※ご応募いただいた個人情報はお米、資料発注に使用し、目的外には使用しません

お問合せ
岐阜県稲作経営者会議・同青年部事務局(岐阜県農業会議) 担当: 堀口・松浦・伊藤
TEL 058-268-2527 FAX 058-273-6177 Eメール info@gifu-agri.jp

写真1 消費者への審査員募集パンフレット
(岐阜県農業会議提供)



写真2 審査用の米セット(写真1に同じ)

実施することは難しい。そのため、県の「米の食味向上対策事業」を活用して開催することになった。また、岐阜県内の米卸会社(株)ギフライスが県産米の振興や担い手支援につながるとして趣旨に賛同し、精米から消費者への配送までの一連の作業を引き受けてくれた。

具体的には、①エントリーした会員が出品する米を玄米で(株)ギフライスに送付(2月上旬)、②(株)ギフライスが同じ条件で選別・精米し、3合に個包装、袋には審査員に生産者・品種がわからないように番号のみを付して審査員に宅配で送付(2月下旬)、③審査員は届いたお米を指定の期間内に自分の家で、いつもと同じように炊飯して食べ比べる。「見た目」「香り」「食味」「食感」「総合評価」を各10点満点(合計50点満点)で評価し、採点シートに記入し、事務局に郵送、④審査結果は事務局が集計し、全審査員の平均点数をもとにランキングするという流れで進められた。審査には80名の消費者が参加し、トータルの審査員数は119名となった。

集計結果は、22年3月15日の総会に合わせて開催された食味に関する研修会(オンライン)で報告された。超大粒であることや香りの高さが評価され、10名から満点を獲得した(有)すがたらいす(下呂市)の「いのちの壺」が第一位となった(第1表)。上位入賞者からは、入賞の喜びとともに、衛星リモートセンシングの解析結果にもとづく施肥改善により、食味への影響が大きいタンパク質含有率を調整

第1表 第4回米自慢大会審査結果

	平均得点 (50点満点)	満点 獲得数	会員名	品種名
1位	42.5	10	有限会社すがたらいす (下呂市)	いのちの壺
2位	38.9	4	かずほ 主穂営農・奥村知己 (岐阜市)	ハツシモ× ぴかまる
3位	38.7	4	株式会社SUN AND NORF(養老町)	ハツシモ

資料 岐阜県農業会議提供資料

(注) 参加した119名のうち、集計期日までに提出された113名の結果を集計したもの。

し、稲刈りも分けて行っていることなど、食味向上に向けた工夫についてコメントがあった。また、参加者からの栽培や選別のしかたについての質問や悩みにも丁寧にアドバイスするなど、活発な意見交換がなされた。

3 若い力で米の魅力を発信したい

米自慢大会を終え、会長として企画を進めてきた中島悠前会長((有)すがたらいす代表取締役)は、「初めての試みであり、正直うまくいくのか不安もあったが、皆様の協力のもと、よい大会とすることができてうれしい。食味コンテストの多くは食味鑑定士等の専門家がじっくりと食べて評価するものであり、それもちろん参考になるが、今回の審査方法は消費者の生活により近い。具体的なコメントを添えてくださる審査員も多く、生産者にとってとても有益なものとなった」と振り返った。

また、山田豊樹新会長((株)ヤマダライス代表取締役)は、「生産者や家族以外のたくさんの方々にも食べてもらうことができてよかった。消費者からの評価をランキングされるのでとてもドキドキしたが、審査結果や入賞者のアドバイスから多くのヒントが得られ勉強になった。今後は、美味しい米を作る努力はもちろん、どうすれば自分たちのお米を選んでもらえるのか、皆で考えていきながら、若い力で米の魅力を発信していきたい」と語った。進化を続ける若手稲作経営者の取組みに、今後も注目していきたい。

(こばり みわ)